

【P3】

日本が誇る、四季折々の美しい風景を訪ねよう
春は草木が芽吹くとともに桜が咲き誇り、夏は青空に映える新緑とひまわりが美しい。秋には色づいた紅葉が空を染め、冬は凍てつくような寒さのなか、雪が舞い散る。
日本の四季折々の風景からは、自然の作り出す美しさ、儚さ、そして力強さを感じることができるはず。

【P6 春】

日本の春は一般的に3～5月。
寒さがやわらいで、草木が芽吹き始め、やがて花々で野山が彩られると、春の訪れが目にも感じられるようになる。
3月下旬からほぼ1か月間は、桜の季節。南の地域から日本を北上して徐々に開花。人々は桜の木の下に集って食事や会話を楽しんだりする。
4月下旬から5月上旬にかけて、日本では「ゴールデンウィーク」と呼ばれる大型連休がやってくる。ハイキングやキャンプ、川下りなど春の行楽を楽しむ絶好の機会だ。

【P8 ^{あらくらやま}新倉山浅間公園の桜】

標高約650mから850mに位置する山梨県富士吉田市。
日本最高の霊峰をどこからでも望める市内でも、屈指の人気を誇る富士山ビュースポットが新倉山浅間公園だ。
桜まつりのころに国内外から大勢の観光客が訪れる最大の理由は、富士山、桜、色鮮やかな五重塔と、三つの美しい取り合わせが目を引き光景に出会えるから。五重塔までは397段の階段を上がらなければならないが、650本余りのソメイヨシノが満開となって桜色に園内を染める時期、日本の美を象徴する景色を見逃す手はない。

【P10 高田公園の夜桜】

新潟県上越市にある高田公園は、江戸幕府を開いた徳川家康の六男、松平忠輝の居城・高田城があった場所で、現在は桜の名所として知られている。
高田公園の桜は、100年以上前に植樹され、現在は公園とその周辺に約4000本あるといわれる。そして、高田公園の桜

がもっとも美しい眺めを見せるのが夜。花見の時期には約3000個のぼんぼりが設置され、桜色の花が夜空にいっせいに浮かびあがる。ライトアップされた高田城の三重櫓が彩りを添え、お堀の水面に映る景色の美しさもあって、日本三大夜桜に数えられている。

【P12 あしかがフラワーパークの藤】

樹齢150年、600畳敷きの巨大な藤棚に咲く大藤を目の前にすれば、だれもがその壮観な光景に息をのむ。アメリカCNNが選出した「2014年の世界の夢の旅行先10か所」に、日本で唯一選ばれたのが納得できるはずだ。
ほかにも、長さ80mの白藤のトンネル、きばな藤のトンネルなど、350本以上の藤が咲き誇る。4月から5月にかけて薄紅、紫、白、黄色と順に咲いて、訪れる人たちを楽しませ続けてくれる。
藤の花が終わってからも、バラ、クレマチス、しゃくなげ、花菖蒲が出迎えてくれる。

【P14 小湊鐵道と菜の花】

千葉県のローカル線である小湊鐵道は、こぢんまりした見た目の愛らしい列車と沿線の牧歌的な風景が魅力。春は桜も楽しめるが、何と言っても、一面の黄色い菜の花畑のなかをのんびり走る時期が観光客に人気だ。
養老溪谷駅近くになると、社内アナウンスが流れ、車窓に広がる美しい景色に乗客から歓声があがる。
その後も、養老溪谷駅で足湯に浸かったり、周辺を散策したりと、ちょっとした楽しみが待っている。小湊鐵道の春の旅は、きっと安らぎを与えてくれるだろう。

【P16 ^{しうでやま}紫雲出山の桜】

温暖な気候で知られる瀬戸内海に突きだした庄内半島。そのなかの香川県三豊市ある標高352mの紫雲出山は、四国屈指の桜の名所だ。
山の名前は浦島太郎伝説に由来する。竜宮城から帰った浦島が玉手箱を開けた時に出た煙が、紫の雲になってたなびいたことから名付けられたといわれる。

春には、山頂付近の約 1000 本の桜と青い海とのコントラストが美しい。

一方で、夕暮れ前などに、瀬戸内海の島影があたかも紫煙に包まれて霞んでいるように見える光景も、実に幻想的で捨てがたい。

【P18 国営ひたち海浜公園のネモフィラ】

開園面積約 200ha の広大な敷地に恵まれた国営ひたち海浜公園での一番の見どころが「みはらしの丘」。太平洋を一望できるその丘は、春になると 450 万本ものネモフィラの花で覆われる。青い花の中心が白くなる品種のため、青い海にさざなみが立っているようにも見える。丘の地平線で、青い花畑と青空が溶け合う光景は、だれの心にも残るはずだ。

また、色とりどりのチューリップ、早春を彩るスイセン、そして、秋に大地を紅く染めるコキアなど、季節を問わず訪れてみたい花の名所だ。

【P20 弘前公園の桜】

江戸時代に建造された天守、城門、櫓が現存し、国の重要文化財に指定されている弘前城。現在は公園として市民に開放され、桜の名所として「日本さくら名所 100 選」にも選ばれている。

2600 本の桜が並ぶ園内は、満開の時期には 200 万人を超える人でにぎわう。桜のトンネルとお堀にずらりと並ぶ桜は見もの。日本最古といわれるソメイヨシノの枝振りもみごと。

夜桜も人気があり、桜のライトアップはもちろん、お堀の水面に映る姿や、散った花が水面を覆う「花筏(はないかだ)」が、春の風情を感じさせる。

【P22 ^{たきのうえ} 滝上公園の芝桜】

5 月中旬から 6 月にかけての「芝ざくら滝上公園」は、一面の芝桜で、桃色の絨毯が敷き詰められたようになる。10 万㎡を埋め尽くすその光景は圧巻。花の時期には鮮やかな色とともに、甘い香りが公園にあふれ、ヘリコプターによる遊覧飛行で眺望を楽しむ人も。

幻想的な芝桜の絨毯も、実は 1957 年に町民がミカン箱一杯分の苗を公園の入口に植えたのが始まり。滝上町は、日本一のハッカ生産量を誇る地域として、ハーブ栽培や町の緑

化に力を入れ、「町が花束」をキャッチフレーズにしている。

【P24 ^{かわち} 河内藤園】

日本の大型連休の時期、4 月下旬から 5 月上旬にかけて、多くの人とその絶景を求めて集まるのが、福岡県の河内藤園だ。その評判は SNS などで世界に広まり、2015 年には、アメリカ CNN「日本の最も美しい場所 31 選」に選出されたほどの人気に。

一番の見どころは、花の香りに包まれながらぐるぐる藤の花のトンネル。80m と 110m の 2 本が設けられ、いずれもみごとに手入れされている。

藤棚の周辺にはモミジも植えられており、5 月には上品な藤色とモミジの新緑のすがすがしい共演も楽しめる。

【P26 タウシュベツ川橋梁】

タウシュベツとは「樺の木の多い川」という意味。北海道の音更川(おとふけがわ)支流にあたるこの川に架けられたアーチ橋は、旧国鉄士幌(しほう)線のために造られたが、1987 年に廃線。時の流れのなかで、橋は古代ローマ遺跡を思わせる姿に変わってしまった。

また、ダムの影響で水位が変化するため、6 月からは水位が上がり、10 月には完全に水の中へ。1 月頃には長さ 30m、11 連のアーチが眼鏡橋の景色をつくる。姿を現したり消したりする神秘的な様子から「幻の橋」とも呼ばれている。

【P28 鍋ヶ滝】

水の流れを滝の内側から見ることのできる滝を「裏見の滝」と言うが、そのなかでも、人が歩いて通れる滝として知られる鍋ヶ滝。

幅約 20m、滝の落差は 10m 程度と滝自体の規模はそれほど大きなものではないが、清流のカーテン越しに見える眺めは格別の美しさ。森をなす緑の木々とやわらかな木漏れ日が幻想的な景観となって目に飛び込んでくる。

テレビCMの撮影に使われたことで、この絶景はさらに広く知られることに。春には期間限定で、滝を裏側からライトアップするイベントも催される。

【P30 浜野浦の棚田】

山間に見られる棚田は多いが、小さな入り江にある佐賀県浜野浦の棚田は珍しく海に面して連なっている。

そして、この場所の景観がもっとも美しくなるといわれるのが、春の夕暮れ時。4月下旬から5月上旬、大小 283 枚もの田に稲作のために水が張られ、夕陽を受けて水面が光を反射する光景を目にできるからだ。

金色の光を放ちながら水平線に消えてゆく太陽と、水面の輝きを残しつつ黒く陰る入り江。刻々と変わりゆく眺めがもたらす贅沢な時間を心ゆくまで楽しめるはずだ。

【P32 見晴公園 香雪園】

北海道函館市内有数の豪商の別荘として造られた本格式庭園は、北海道で唯一の国指定文化財庭園。名勝として知られる。

春には満開の桜が楽しめる広場から園亭へ入ると、和の風情に満ちた空間に出会える。新緑と庭を覆う苔が作り出すしっとりとした景観を眺めて、いにしえへ思いをはせるもよし、庭の池に集まる野鳥のさえずりに耳を澄ますもよし。包み込まれるような静けさに身を任せたい場所だ。秋には燃えるようなモミジの紅葉も見られる。

【P34 富士山と茶畑】

静岡県は茶園の面積、収穫量ともに日本一を誇る。そのため、桜の時期が終わると、青空と富士山を背景に、緑一色の茶畑を撮影できる絶好のシーズンが訪れる。

カメラを構える絶景ファンの間では、いくつかの撮影地が人気だ。山の斜面を埋め尽くす広大な茶畑。茶畑の並びのラインが奥行きを感じさせる構図。茶畑の中にぽつんと一本の高木。咲き誇るツツジや菜の花と茶畑を組み合わせると色彩豊かに。どんな茶畑の写真も、富士山は美しい一枚に変えてくれる。

【P36 桜咲く祇園】

京都には「はんなり」という独特の言葉がある。「上品さのある華やかな様子」を形容する言葉で、京美人や舞妓さんに対してよく用いられる。

古き時代の京の風情を漂わせる祇園白川の巽橋あたり。町家や料亭が立ち並び、石畳の道が続く。

この場所に植えられたソメイヨシノの桜並木もまた「はんなり」の響きが似合う。白川の流れる花びらがはらはらと舞い散る様子は、映画の1シーンのように風雅だ。陽が落ちた後は、ライトアップされた夜桜を愛でるのもまた一興。

【P38 ^{おこしき}御輿来海岸の夕日】

8 世紀に記された日本の歴史書『古事記』や『日本書紀』に登場する景行(けいこう)天皇が九州遠征の折に、美しい海岸線に心を奪われ御輿を止めて見入られた、という伝説からその名がついたとされる熊本県の御輿来海岸。

日本でもっとも干満の差がある有明海に面しており、干潮時には沖合約 2km まで潮が引く。その干潟には、波と風が足跡をつけたように曲線の砂紋が現れる。

ごくまれに干潮と夕陽が重なったときに見られる神秘的な光景は「幻の絶景」と呼ばれ、値千金の眺め。春の日没時には、海岸を歩くサンセットウォーキングが開催される。

【P40 苔寺-妙法寺】

鎌倉には多くの寺があるが、苔寺として知られる妙法寺は観光客に人気だ。鎌倉駅から歩いて 15 分。

受付で拝観料を支払うと、線香を渡される。本堂でお参りを済ませたら奥の仁王門へ。そこには、永い時の流れでみごとに苔むした石段が、静かにたたずんでいる。足を踏み入れることはできないが、苔の緑に覆われた階段にせり出すようにシダが生える鬱蒼とした光景は、見る者の心を落ち着かせてくれる。

さらに、境内の裏山へ上がることもでき、天気によければ富士山や相模湾を望めるだろう。

【P42 ^{くるしま}来島海峡大橋】

瀬戸内海に浮かぶ島と島を結び本州と四国をつなぐしまなみ海道は、数々の美しい眺めに惹かれて大勢のサイクリストが集まることで知られる。

春にはとくに、大島の南端にある、標高 307.8m の亀老山(きろうさん)展望公園からの眺望が秀逸。展望台ブリッジからは、世界初の三連吊り橋である来島海峡大橋の雄大な姿を一望できるが、4月には公園の桜、橋、その奥に沈んでゆく夕陽を一枚の写真におさめることができる。

日が暮れた後は、定期的に行われる橋のライトアップや今治市街の夜景も望める絶景スポットだ。

【P44 夏】

日本の夏は一般的に6～8月。

6月になると雨の日が続き、梅雨と呼ばれる時期に入る。この時期は、紫や青の花を咲かせた美しい紫陽花が見ごろを迎え、7月上旬に梅雨が明けると、いよいよ夏本番だ。

澄み渡る青い空や海と白い雲のコントラスト、緑に色づく山々など、日本の夏らしい光景を見られるようになる。

8月中旬にはお盆という祖先の霊を供養する期間があり、この時期には各地で祭りなどが行われ、地方ごとの文化や風習を目にすることができる。

【P46 ^{つしま}角島大橋】

山口県下関市の本土と角島の上に架かる全長 1780m の角島大橋は日本屈指の長さを誇る。

エメラルドグリーンの上の海の上に架かる美しい眺望が注目を集め、自動車など、数々のテレビ CM のロケ地に採用されてきた。

北長門海岸国立公園内に位置しており、自然の景観を壊さないように橋脚を低くし、本土と角島間にある鳩島を迂回して建設された。本土側の橋のたもとにある海士ヶ瀬(あまがせ)公園は、自然と調和した橋の姿を楽しめる絶好のビュースポットだ。

角島の彼方に夕陽が沈んでいく、夕暮れの美しさも一見の価値あり。

【P48 箱根登山鉄道とあじさい】

日本有数の観光地として有名な箱根山で、あじさいが開花し始めるのは6月中旬ごろから。この時期の箱根登山鉄道は、沿線にあじさいが咲き誇り、“あじさい電車”という愛称で親しまれる。

山麓にある標高 96m の箱根湯本駅から、終点となる標高 541m の強羅駅までは約 40 分。ゆっくりと流れる車窓から、手が届きそうなほどの近さの紫陽花を楽しめる。

開花時期は標高差で変わるため、高くなるにつれて見ごろの

時期が遅くなっていく。少しずつ移り変わる開花具合にも注目したい。

【P50 百合ヶ浜】

鹿児島県最南端の島である与論島。その島の東側にある大金久(おおがねく)海岸の沖合約 1.5km の場所に、中潮から大潮の干潮時だけに姿を見せるのが百合ヶ浜だ。

真っ白な砂浜は、太陽の光を受けてキラキラと輝くエメラルドグリーンの上に囲まれて、地球の楽園とも呼ばれる。

百合ヶ浜が現れるのは、主に春から夏にかけて。日によって現れる時間や位置、大きさが異なり、潮が満ちると波の下に隠れてしまう。百合ヶ浜で「自分の年齢の数だけ星砂を見つけると幸せになれる」という伝説も。

【P52 白金青い池】

北海道・美瑛町にある白金青い池は、鮮やかな青い水面と立ち枯れした白いカラマツの木々が、神秘的な雰囲気を醸し出す人造池。

防災用のダムにたまったアルミニウムを含んだ水と美瑛川の水が混ざり合い、そこに差し込む太陽光の反射によって、絵の具を溶かしたような美しい青色に見えるといわれている。

写真愛好家を中心に口コミで広まり、世界的なIT企業のノート型パソコンの壁紙に採用されたこともある。季節によって色味が変わり、冬の夜間は期間限定でライトアップも実施。雪景色の中に池が青白く照らし出され、夏とは違った景観を楽しめる。

【P54 菊池溪谷の新緑】

阿蘇外輪山北西部の阿蘇くじゅう国立公園内にあり、1193ha にわたって天然の広葉樹が生い茂る自然豊かな溪谷。森の中に射し込む木漏れ日が、溪谷を流れる清流の水煙を照らし出し、幻想的な光景をつくり出す。森を縫うように流れるせせらぎは大小の滝を成し、代表的な四十三万滝は「日本の滝百選」に選ばれている。標高は 500～800m で、夏の平均気温は 20 度前後。水温は 13 度で天然のクーラーとも呼ばれており、避暑地としても人気だ。

P56 北竜町ひまわりの里

北海道の北竜町にあるひまわりの里では、毎年7月中旬から8月下旬まで「ひまわりまつり」が開催される。約150万本のひまわりが咲き乱れる23.1haの畑は、作付面積で日本最大規模を誇り、広大な丘一面が黄色に染まった景色は圧巻だ。

中でも東向きの斜面は、一様に同じ方向を向いたひまわりを撮影できる絶好の撮影スポットになっている。約30種もの世界のひまわりを集めた「世界のひまわりコーナー」や、巨大なひまわり畑の中を巡る「ひまわり迷路」など、見どころも多彩。

【P58 龍宮窟】

海岸の崖の弱い部分が、波に浸食されてできた洞窟を海食洞という。龍宮窟は、洞窟内の天井の一部が崩れ、直径50mほどの天窓が開いた海食洞だ。この天窓は、伊豆各地にある海食洞の天窓の中でも最大級。

龍宮窟の中に入ると、陸と空、海のコントラストがつくり出す神秘的な空間を楽しめる。見上げると天窓から広がる青い空。洞窟の置くの穴から覗くと、正面には小さい入り江のようなコバルトブルーの海があり、遠く大海の水平をも望める。遊歩道から龍宮窟を見下ろすとハートの形に見えることも人気を集めている。

【P60 白糸ノ滝】

幅150m、高さ20mの湾曲した岸壁から流れ落ちる幾筋もの水が、白い糸のように見える白糸ノ滝。日本の滝では最大規模の幅を誇り、壮観な光景が広がる。国の名勝及び天然記念物として80年以上前から親しまれ、「富士山-信仰の対象と芸術の源泉」を構成する資産の一部として世界遺産にも登録された。

水温は年間を通じて12度で、夏に心地よい風を感じられる。滝を囲む森の緑と滝つぼの青さも見どころのひとつだ。

【P62 洞爺湖】

洞爺湖は、約11万年前の巨大噴火で形成された洞爺カルデラの中にある湖だ。

東西約11km、南北約9kmのほぼ円形で、中央付近に大小4つの島が浮かぶ。これらの島はまとめて中島と呼ばれ、洞爺湖の象徴になっている。いずれも無人島ながら、中島で最も

大きい「大島」には、湖畔の温泉街から出る遊覧船で上陸可能。

湖畔から眺める中島の風景に加えて、湖越しに見る有珠山や昭和新山も絶景。天気の良い日には「蝦夷富士」とも呼ばれる羊蹄山なども望め、自然の雄大さを感じさせる。蝦夷は本州の北にある土地の古称。

【P64 長岡まつり大花火大会】

新潟県で開催される日本三大花火大会のひとつで、8月2、3日の2日間に計2万発の花火が打ち上げられる。

直径650mの大輪を咲かせる「正三尺玉三連発」や2つの橋にかけられる各全長650mの「ナイアガラ」など、圧倒的スケールの花火が次々と夜空を彩る。

1945年の長岡空襲の慰霊祭をきっかけに始まり、近年は東日本大震災など相次ぐ自然災害からの復興の祈りも込められている。全長2km、約5分間にわたって打ち上げられる復興祈願花火「フェニックス」をはじめとする、ミュージック付きスターメインにも注目だ。

【P66 もとのすみ 元乃隅神社】

山口県長門市にあり、123基の鮮やかな朱塗りの鳥居が、参道入り口から100m以上にわたって並ぶ神社。商売繁盛や交通安全、良縁などさまざまなご利益があるとされ、鳥居は1987年からの10年間に奉納されたもの。

赤い鳥居と青い海、周囲の緑が織り成す風景を、アメリカCNNが「日本の最も美しい場所31選」として2015年に紹介。その後、訪問者が30倍以上に激増した。

境内にも高さ約6mの大鳥居があり、その上に設置された賽銭箱に賽銭を投げ入れることができれば願いが叶うといわれている。

【P68 のうみぞ 濃溝の滝】

洞窟の中を滝がぐり抜ける情景が、まるでアニメ映画の世界のように神秘的に見えることから、SNSなどで話題になった近年人気のスポット。

晴れた日の早朝は洞窟を抜けた陽光が、滝つぼに反射してハートを形作ることも。洞窟は人工的に作られたもので、地元では「川廻しのトンネル」や「亀岩の洞窟」とも呼ばれる。千葉

県君津市の清水溪流広場内にあり、夏には広場内で水遊びやホテル観賞も楽しめる。東京都心から車で約 1 時間半とアクセスしやすく、都心から出発する日帰りバスツアーも運行されている。

【P70 ^{つうじゆんきょう} 通潤橋の放水】

長さ 75.6m、高さ 20.2m の日本最大級となる石造りアーチ水路橋で、国の重要文化財に指定されている。

橋の上部に 3 本の通水管が通っており、そこから農業用水がほとぼしる豪快な放水シーンが見ものだ。本来は水路内にたまる土砂などを洗い流すための放水だが、一瞬の絶景として話題に。周辺には遊歩道が整備されており、橋の上を歩いて渡ることもできる。

放水は 1 日 1 回、午後 1 時からの約 15 分間。年間で放水日が決まっているため、訪問前の確認は必須。移動して、異なる角度から放水を見るのもおすすめだ。

【P72 隅田川花火大会】

毎年 7 月最終土曜日に開催され、1 日で 2 万発以上の花火が打ち上げられる東京の夏の風物詩。その起源は、大飢饉による多くの犠牲者の慰霊と悪病退散を祈念し、1733 年に江戸幕府が行った「両国の川開き」といわれる。

長い歴史を誇る由緒ある花火大会の花火に負けない高さを誇るのが、2012 年に開業した東京スカイツリー。東京の夏の一夜を彩る新旧の光の共演は、都心ならではの 1 シーンといえる。隅田川に浮かぶ屋形船は、この大イベントをビルなどに遮られずに楽しむ、風情も感じられる特等席だ。

【P74 川越氷川神社の縁むすび風鈴】

約 1500 年前に創建され、古くから縁結びの神様として人々の信仰を集めてきた川越氷川神社。ここで行われている「縁むすび風鈴」は、風鈴に願いを込めて神様に伝えるイベントで、毎年 7 月上旬から約 2 カ月開催される。最大の見どころは、2000 個以上の江戸風鈴が並ぶ「風鈴回廊」。職人が手作りした色とりどりの風鈴が、夏の日差しを浴びてきらきらと輝き、そよ風を受けて涼やかな音色を奏でる。

【P75 ^{かんとう} 秋田竿燈祭り】

毎年 8 月 3 日から 6 日に秋田県秋田市で開催される国の重要無形民俗文化財。

竿燈は、竹竿にたくさんのちょうちんを吊り下げ稲穂に見立てたもので、大きいものはちょうちんの数が 46 個、長さ 12m、重さ 50kg にもなる。

夜は 260 本以上の竿燈が通りに並び立ち、幻想的な光景が広がる。「どっこいしょー、どっこいしょー」という掛け声の中、竿燈を手で持つだけでなく、額や肩、腰へと操る妙技も披露される。夏の病魔や邪気を払う「ねぶり流し」が原型とされ、秋田独自の風俗として親しまれていたと伝わる。

【P76 宮島水中花火大会】

日本三景のひとつ「安芸の宮島」は、世界遺産に「厳島神社」として登録されている日本屈指の観光スポットだ。

その宮島を舞台に、150 発の水中花火を含む約 5000 発の花火が大輪を咲かせる。最大の見どころは、海上に半円状に開く水中花火と、それを背景に浮かび上がる厳島神社の大鳥居のシルエット。その幻想的な光景は写真愛好家の間でも絶大な人気を誇る。

直径 30cm の「水中尺玉」を、100 発も見られることも大きな特徴。当日は花火観賞用の遊覧船も用意され、宮島の夏を彩る一大イベントになっている。

【P78 ナガンヌ島の珊瑚礁】

那覇市から西へ 15km の沖合にあるナガンヌ島は、神山島、クエフ島との 3 島からなるチービシ環礁の中で最も大きな島。全体が珊瑚礁に囲まれ、真っ白な砂浜と鮮やかなエメラルドブルーの海が美しいコントラストを描き出す。

海水浴はもちろんダイビングやシュノーケリング、シーウォークなど各種マリンスポーツには絶好の舞台だ。ウミガメや貴重な海鳥の産卵地でもあり、ヤシやモンパキ、アダンといった熱帯の植物が自生。多種多様な生物を観察できることも魅力といえる。

【P79 はての浜】

はての浜は、砂浜だけの 3 つの無人島の総称。沖縄県久米島の東の沖合 5km にあり、久米島に近い方から「メヌ浜(前の浜)」「ナカノ浜(中の浜)」「ハテノ浜(果ての浜)」で構成さ

れる。

青い空からエメラルドグリーン^①の海、真っ白な砂浜へと景色が広がり、その美しさは東洋一といわれることも。南側の海は遠浅のため、潮の満ち引きで刻々と変わる海の色も見どころのひとつ。中でもメヌ浜とナカノ浜の間の底が透けて見える海は必見だ。

【P80 都井岬の御崎馬^{みききうま}】

宮崎県最南端の都井岬は、「岬馬およびその繁殖地」である、岬馬は国の天然記念物に指定されている。岬馬は御崎馬とも呼ばれ、人の手がかかっていない野生馬。体高が 130cm 前後と小柄で、現在の生息数は 100 頭ほど。現存する 8 種の日本在来馬の中で、唯一の国の天然記念物だ。

眼下に広がる日向灘を背景に、広々とした草原で草を食む馬たちの姿は、日本の原風景をほうふつさせる。夏には生後数カ月の子馬が元気に跳ね回っていることも。

【P81 伊江島】

沖縄本島北部の本部港の北西約 9km、船で片道 30 分の場所にある伊江島。

本島から望むこともできるこの島は、コバルトブルーの美しい海に囲まれた自然の宝庫だ。島の中央のやや東にそびえる標高 172m の「城山(ぐすくやま)」は、「伊江島タッチュー」という愛称でも親しまれている島のシンボル。世界でもここしか見られない珍しい地質現象によってできた岩山で、頂上に登って島内を一望することもできる。

約 1km にわたって白浜が続く伊江ビーチや、60m を超える断崖絶壁の下から湧き出る水「湧出(わじい)」など、多彩な見どころがある。

※写真は本島から見た伊江島

【P82 五山送り火・灯籠流し】

毎年 8 月 16 日に行われる京都五山送り火は、古都の夜空を彩る夏の風物詩だ。

「大文字」を皮切りとして「妙法」「船形」「左大文字」「鳥居形」の順に、午後 8 時から 5 分おきに点火。京都市街を囲む山々に炎で描かれた文字や図形が次々と浮かび上がる。

また、同日に京都市街北西にある広沢池で灯籠流しが行わ

れる。赤、白、黄、青、緑の五色の灯籠が池一面に広がり、その後方には鳥居形の送り火を望むことが可能。

家に迎えた先祖の霊をあの世へ送る一夜限りの精霊送りの行事で、市内各所に情趣に富んだ雰囲気が漂う。

【P84 大正池と穂高連峰】

1915 年の焼岳の大噴火によって噴出した泥流が、梓川をせき止めたことで誕生した大正池。雄大な穂高連峰を鏡のように水面に映し出し、国の特別名勝・特別天然記念物に指定された上高地の中でも代表的な景観のひとつ。その美しさに加えて、水没して立ち枯れた木々が作り出す幻想的な光景も特徴だ。特に夏の早朝はもやがかかり、普段以上に神秘的な雰囲気に包まれる。

現在も焼岳からの土砂が流入しており、池の底の土砂を取り除くなど、景観を保全するための取り組みも行われている。

【P86 天王八幡神社のホタル】

岡山県新見市にある天王八幡神社の境内とその周辺の森は、キンボタルの集団発生地として知られる。キンボタルは非常に珍しい種類で、その名の通り金色の光を放つ。

日没から 1 時間ほどの間に数千の金色の光が乱舞する様は、瞬きするのを忘れてしまうほどの美しさ。キンボタルの平均寿命は 1 週間程度で、毎年 7 月 10 日前後の 1 週間ほどしか見ることができない。生息地内へ立ち入らないなど、ルールやマナーに気を付けて観賞したい。

【P87 室堂平^{むろどうたいら}の天の川】

標高 3000m 級の山々が連なる北アルプスを貫く立山黒部アルペンルートは、富山県と長野県を結ぶ世界有数の山岳観光ルート。標高 2450m の室堂平は、その中心地で観光の拠点になっている。

室堂駅に隣接する「ホテル立山」が「星にいちばん近いリゾート」を標榜するように、夜空を見上げると雲のようにはっきりとした天の川が流れる。7 月 20 日頃から約 1 カ月にわたって現れ、8 月 13 日に極大となると予想されるペルセウス座流星群も見どころだ。

【P88 秋】

日本の秋は一般的に9～11月。

秋が訪れると、少しずつ昼が短く、夜が長くなり、気候的に過ごしやすい季節になる。

木々が色づいて紅葉が見られるのも、秋の特徴。日本には「紅葉狩り」という言葉がある。が、「狩り」といっても、実際に落ち葉を拾い集めたり枝から紅葉を取ったりするのではなく、山などへ出かけて、赤やオレンジ、黄色に染まる紅葉の眺めそのものを楽しむのだ。

秋は農作物の収穫時期でもあり、豊作への願いや感謝をあらわすための秋祭りが各地で見られる。

【P90 永観堂の紅葉】

京都の数ある紅葉名所のなかでも、1000年以上も前からその紅葉の美しさが知られるのが永観堂だ。10世紀に書かれた『古今和歌集』に「モミジの永観堂」と詠まれているのだ。

11月中旬、約3000本のモミジが競うように鮮やかな色を見せ、紅葉の最盛期を迎える。境内の一番高い場所にある多宝塔を包み込むように彩る光景は幻想的とさえいわれる。多宝塔からは紅葉越しに京都の街並みを望める。

この時期、境内は夜間にライトアップされ、日中とは異なる紅葉の美しさを心に刻める。

【P92 天狗平と立山連峰】

標高差のある立山連峰の紅葉は、9月下旬から11月上旬あたりまで長く楽しめるのが特徴。山の頂から麓へおりてゆくように順に紅葉していくのだ。

また、色合いが豊かなのも観光客に人気のある理由で、ナナカマドやヤマウルシの赤、イワイチョウやミネカエデの黄、ハイマツの濃い緑、チシマザサの淡い緑が、鮮やかな色彩のハーモニーを奏でる。

山歩きをしながら、ケーブルカーやロープウェイから、いろいろな眺望の楽しみ方ができるのも、山の紅葉の魅力。

【P93 だきがえ抱返り溪谷の紅葉】

秋田県にある抱返り溪谷。その名は、地形が急峻で山道が狭く、通行人同士がすれ違う際にお互いを抱きかかえるよう

にして振り返る形になったところからついた、ともいわれている。

しかし、今ではすっかり遊歩道が整備され、紅葉の時期には燃えるような山肌とエメラルドブルーの溪流がおりなす眺めを楽しむことができる。

なかでも、落差30mの「回顧(みかえり)の滝」や、秋田で一番古い赤い吊り橋として知られる「神の岩橋」が、紅葉の絶景スポットとして訪れる人を魅了している。

【P94 尾瀬の紅葉】

2000m級の山々に囲まれた湿原に、約800種の高山植物が群生する尾瀬は、特別天然記念物、特別保護地区に指定されている場所。

一般的には、初夏に咲くミズバショウが一面に広がる景色のイメージが強い。そのため、あまり知られてはいないが、9月中旬から10月初旬にかけての湿原の紅葉も尾瀬を代表する景観だ。「草紅葉(くさもみじ)」と呼ばれ、草原全体が金色に輝くような色合いになる。

草紅葉を合図に山の木々も次第に赤く染まり始める。秋を感じながら木道を歩くハイキングも尾瀬の魅力だ。

【P96 大雪山と高原温泉沼】

22万6000haを有する日本最大の国立公園、大雪山国立公園は「北海道の屋根」とも呼ばれる。

大雪山はひとつの山ではなく、2000m級の山々が連なって形成されたものだ。なかでも、大雪高原温泉周辺は大小30の湖沼と原生林があり、高山植物の宝庫。

日本屈指の紅葉の名所であるとともに、日本一早い紅葉を見られる地として有名。ナナカマド、モミジ、カバノキなどは9月初旬から色づき始める。沼の水面に映る色彩豊かな紅葉の姿は、多くの旅人の心をとらえて離さない。

【P98 白川郷】

日本では珍しい「合掌造り」と呼ばれる伝統的な茅葺き屋根の家が立ち並ぶ白川郷の集落は世界遺産にも登録されている。

古い民話の世界を形にしたかのような、のどかな眺めは、外国からの観光客にも人気だ。周囲の山や田んぼの緑が鮮や

かな時期、そして雪化粧をした冬の白川郷はよく知られているが、紅葉の秋の景観も実に趣深い。

10月上旬から山が徐々に色づき始め、11月になると里の紅葉も始まる。時期は短い、紅葉のライトアップも行われる。

そして、11月も半ばを過ぎれば、初雪がちらつき、冬の足音が近づいてくる。

【P100 寸又峡の紅葉】

大井川の支流、寸又川の峡谷は、10月下旬から12月初旬にかけて紅葉の名所となる。

多くの観光客が足を運ぶのが、ダム的人工湖にかかる高さ8m、長さ90mの「夢の吊橋」。エメラルドグリーンやコバルトブルーなど、青の色合いを変化させる湖面と紅葉が作り出す美しい眺めは絶品。

遊歩道のさらに先には、展望台や、峡谷を一望できる高さ100mの鉄橋「飛龍橋」といった絶景ポイントも。

日本有数の温泉地として知られる寸又峡温泉が近いのも、魅力のひとつだ。

【P102 高千穂峡】

国の名勝・天然記念物に指定されている宮崎県の高千穂峡は、高いところでは100mに達する切り立った断崖が7kmにわたって続く峡谷。船に乗って峡谷を分け入ってゆくスリル感は、ここならでは。

荒々しい岩肌が目を引く景観も、秋になればモミジ、カエデ、ナラなどの紅葉に彩られて表情を変える。とりわけ、真名井の滝周辺が色づく時期の、迫力ある滝壺と紅葉の取り合わせは壮観。

遊覧船や川下りで楽しむ紅葉は、山間の紅葉とは異なる格別の味わいだ。

【P103 モネの池】

SNSなどで話題となり、岐阜県関市にある名もない池が、新たな観光名所として知られるようになった。

通称、モネの池。池の透明度が高く、色とりどりの鯉がスイレンの合間を泳ぐ姿が、まるで絵に描いたように鮮やかに見える。

季節を問わず、その眺めを求めて多くの人たちが集まるが、

11月中旬、池に覆い被さるように枝を伸ばすモミジが紅葉すると、鏡のように池に映る姿がとても美しい。散って水面に落ちた紅い葉もまた風情を感じさせてくれる。

【P104 富士河口湖紅葉まつり】

湖の北側から見る、湖面に映った「逆さ富士」の美しさで知られる湖だ。

桜の時期、花越しに湖と富士山を撮影すれば、まさに日本を象徴するような写真ができあがる。が、鮮やかな紅葉との組み合わせも、その美しさでは引けをとらない。

11月になると、「もみじ回廊」周辺で、「富士河口湖紅葉まつり」が開かれる。夜間は22時までライトアップが続く。まつりのメイン会場から車で約15分の「もみじトンネル」も、紅葉の撮影スポットとして人気を集めている。

【P106 巾着田の曼珠沙華】

埼玉県の、蛇行する高麗川に沿った地形が袋の形に似ているところから「巾着田」と名付けられたこの土地には、四季折々の花が咲く。

春には桜、菜の花、イチリンソウ。夏には紫陽花。秋にはコスモス、ソバの花。そして、この地の代名詞ともいえるのが、曼珠沙華(別名、彼岸花)。

9月から10月にかけては、約500万本の花が咲き乱れ、まるで雑木林のなかに紅い絨毯を敷き詰めたような眺めをつくる。およそ3.4haもの広さにこの花が群生する光景は、日本でも珍しい。

【P107 宮地嶽神社の光の道】

海に沈む夕陽が、海から神社へと続く参道を一直線につないで照らすと、黄金色に輝く「光の道」が現れる。

福岡県福津市、高台にある宮地嶽神社からそんな光景が望めるのは、2月と10月。太陽の沈む位置と参道の関係により、光の道が現れるのは年に2回だけなのだ。

しかも、その日の天候によっては見られないこともあり、光の道を目にできるのは、とても幸運なこととされている。たとえ光の道を拝めなくても、宮地嶽神社には、大しめ縄、大太鼓、大鈴と、日本一の大きさのものが三つもあり、訪れる価値は十分にある。

【P108 越前大野城】

越前大野城は、福井県大野市中心部の亀山にそびえる城。そのため、紅葉のシーズンには城内の紅葉の眺めとともに大野市の街並みとそれを囲む山々を一望できる。

また、11月ごろの気象条件がそろった日の明け方には、亀山以外の城下町が雲海のなかに沈み、越前大野城が「天空の城」となることも。日が昇るにつれて、街が少しずつ姿を現す光景は、なんともいえず幻想的だ。

市内には、九頭竜湖、刈込池など、色づき時期の異なる紅葉スポットが点在しているので、長く楽しめるのも特徴。

【P110 鶏足寺参道の紅葉】

滋賀県にある鶏足寺は、今からおよそ1300年前に開かれ、栄枯盛衰を経て、今は廃寺となった場所。

11月中旬になると、苔むした石垣に並ぶ200本のモミジの古木が色づき、ゆるやかな参道の石段一面に葉を散らし、紅い絨毯をつくる。その景観は美しく、寺の大門跡の一部区域は落葉保存区域として立ち入りが制限されているほど。

境内を進んだ先にある己高閣(ここうかく)には、国の重要文化財、十一面観音立像が安置されているが、立像には今でも、モミジの色を思わせる口紅の色が残る。

【P112 渋峠と白根山】

群馬県と長野県の県境に位置する渋峠は、絶好の紅葉スポット。ここを走る国道292号線は、標高2172mの日本国道最高地点を含む。紅葉の時期に渋峠から望む白根山には、モミジ、カエデ、ナナカマドが色づき、雄大な眺めを見せてくれる。

早朝には雲海が発生することもあり、朝日に輝く雲海の景色はうっとりするような美しさだ。

そのまま白根山のハイキングコースまで足を延ばして、間近に紅葉を楽しむのもいい。ロープウェイでの空中散策もおすすめしたい。

【P114 南禅寺 天授庵】

枯山水の本堂東庭と池泉回遊式庭園の書院南庭。趣の異なるふたつの庭をもつ南禅寺天授庵。

紅葉の時期の景観の華やかさは格別で、門をくぐって書院越しに姿を覗かせる色鮮やかな紅葉には、思わず足をとめてしまう魅力がある。

庭を巡って、みごとな庭石や苔と調和する紅葉を愛で、京都に流れる贅沢な時間を心ゆくまで味わおう。

そして、ここを訪れるならぜひとも体験しておきたいのが、11月後半に行われるライトアップ。昼間とは異なる幽玄な世界に心奪われるはずだ。

【P116 白水しらみずの滝と紅葉】

白山国立公園の原生林の中。岐阜県の雄大な自然に囲まれた白水の滝は、高さ72mの絶壁を水が一筋となって流れ落ち、水煙がもうもと立ち上る名瀑。

流れる水が乳白色に見えるところからその名がつけられ、合掌造りの里として知られる「白川郷」の名前の由来にもなったと伝えられている。

滝を取り囲む豊かな緑の木々は10月になると色づき始め、10月下旬には鮮やかな紅葉で彩られ、絶景が人々を山奥へと誘う。大自然が育んだ壮観な眺めは、県指定の名勝とされている。

【P118 奈良公園と鹿】

約511万㎡の広さをもつ奈良公園は、東大寺、興福寺、春日大社、正倉院、国立博物館など、いくつもの社寺や文化施設を含み、野生の鹿が生息していることで知られる。

モミジ、イチョウ、桜などの木々が園内随所にあるため、10月下旬から12月上旬の初冬までは紅葉スポットとしても人気。若草山を背景にした園内の紅葉は見もので、なかでも世界遺産の東大寺大仏殿正面にある鏡池や、同じく大仏殿西側の大仏池は、水面に映る紅葉を静かに楽しめる穴場だ。

【P120 紅葉の鳴子峡】

宮城県の鳴子峡は、高さ約100mの断崖絶壁が2.6kmほど続く峡谷。10月下旬からはウリハダカエデ、コシアブラ、タカノツメ、ミズナラ、ブナなど、さまざまな木々が赤や黄色に色づき、常緑樹の緑をアクセントに、色彩豊かな紅葉が峡谷を埋め尽くす。

見る場所によっては、鳴子峡に架かる大深沢橋や陸羽東線

の列車が走る鉄橋が眺めに加わる。

ドライブ、谷川沿いの遊歩道、電車の車窓からと、いろいろな絶景の楽しみ方ができるのが特色。近くに、5か所の温泉地が集う鳴子温泉郷があるのも魅力だ。

【P122 安国寺の紅葉】

兵庫県西部の山間にある安国寺は、紅葉の時期のみ本堂に入ることが許され、11月上旬から観光客でたいへんなにぎわいを見せる。

訪れる人たちのお目当ては、樹齢百数十年といわれるドウダントツジ。本堂に面した裏庭の斜面に、高さ幅とも約10mにわたって堂々と枝を伸ばし、本堂横の座敷越しに見る深紅の紅葉は、まるで額縁におさめられた一枚の絵画のよう。思わずため息がもれる光景だ。

紅葉が一番の見ごろとなる11月中旬には、ライトアップも行われている。

【P124 華厳の滝】

袋田の滝、那智の滝とともに日本三名瀑に数えられる華厳の滝。

中禅寺湖から流れる水が高さ97mの断崖から一気に落ちていく様は圧倒的な迫力だ。

エレベーターで滝壺の近くまで下りると、滝の轟音や水しぶきを間近に体感できる。紅葉の時期には、モミジ、ブナ、カエデ、シラカバなどが色づいて季節を感じさせてくれる。

紅葉に囲まれた滝の眺望を楽しむなら、明智平展望台がおすすめ。新緑の季節や、凍てつく冬の景観も美しいとされ、四季を通じて多彩な表情を味わいつくせる名所だ。

【P125 桧原湖の夕焼け】

磐梯山の噴火で流れ出した土砂や岩によって川がせきとめられてできた桧原湖。湖岸周約31km、最大水深31mと、火山噴火が生んだせきとめ湖としては日本一の大きさを誇る。複雑に入り組んだ湖岸線は、湖面に浮かぶ小島とともに独特の景観をつくりだしている。

また、釣りやカヌー、キャンプとアウトドアが満喫できる場としても知られる。秋には湖岸の紅葉が目を引き、日中はコバルトブルーの湖面が、夕陽を受けると紅く染まり、感傷的な気分

に浸らせてくれる。

【P126 大山千枚田】

大山千枚田は、房総半島に位置し、東京からもっとも近いといわれる棚田だ。

平野部の田にくらべて耕地整理が遅れたため、昔ながらの里山の懐かしい景観が残ることとなった。

傾斜地に階段状に連なる375枚の田んぼは、日本で唯一雨水のみで耕作を行う天水田で、貴重な動植物が生息する自然環境になっている。

秋になると、棚田は黄金色の稲穂を实らせ一段と輝きを増す。さわさわと穂を揺らして秋風が田を渡ってゆく様子は、だれの心にも染み入る光景だ。

【P128 紅葉の清水寺】

古都京都の文化財として世界遺産に登録されている清水寺は、今や国内外から大勢の観光客が訪れ、日本有数の観音霊場であるとともに、屈指の観光名所である。

春は桜の名所としてにぎわう一方で、秋は紅葉の名所として名高い。

国宝の本堂の一部である「清水の舞台」は崖の斜面に建てられており、鮮やかに染まった一面の紅葉が作り出すあでやかな眺めは「錦雲峡(きんうんきょう)」と呼ばれる。

奥の院から望める、紅葉に包まれた本堂の景観も格別だ。

【P130 冬】

日本の冬は一般的に12～2月。

さまざまな地域で雪が降り、地域によっては何もかも白一色に染まる雪景色が見られる。山も川も滝も湖も、ほかの季節とは異なる美しい表情をのぞかせてくれる。

年末年始は、日本人にとって特別な時期。多くの人々が休暇をとり、実家へ帰省したり家族で集まったりしてにぎやかに過ごすことが多い。正月には神社仏閣へと出かけ、一年の幸福を祈る「初詣」(年が明けてから初めて参拝すること)の風習もある。

【P132 雪の兼六園】

石川県金沢市にある兼六園は、水戸の偕楽園、岡山の後楽園とならぶ日本三名園のひとつ。池や築山がつくられた園内は、全体を遊覧できる。

さまざまな花や樹木が植えられており、季節ごとに異なる景観が楽しめるが、特に冬の雪景色は美しい。松や桜などの名木には雪の重みから守るために、芯柱を立て縄で枝を吊る「雪吊り」が施され、独特の景観が現れる。また、夜にはライトアップも行われ、昼とは違った景色を見せてくれる。

【P134 オホーツク海の流氷】

北海道の北側に広がるオホーツク海は、厳冬期になると真っ白な氷で覆い尽くされ、美しい景観が現れる。流氷はサハリンの北で発生し、寒気の強まりとともに成長しながら北風と海流に流されて1月中旬に網走の沖合に姿を現す。その後、1月下旬から2月上旬にかけて網走・紋別・知床・羅臼などのオホーツク海沿岸に接岸し、海が見渡す限りの大氷原に変貌する。

海面の氷を割りながら進む砕氷船クルーズをはじめ、流氷の上を散策する流氷ウォーク、アザラシなどの野生動物ウォッチングなども楽しめる。

【P136 雪の銀山温泉】

山形県尾花沢市にある銀山温泉は、大正時代の面影を残す温泉旅館街。温泉街の中心を流れる銀山川の両岸には、大正末期から昭和初期に建てられた洋風の木造多層建築の旅館が立ち並び、味わい深い独特の景観を生んでいる。

尾花沢市は日本有数の豪雪地帯であり、旅館の屋根や橋の上にとっぷりの雪をまとった冬の景観は詩情あふれる美しさ。ガス灯がともされる夜には、さらにノスタルジックな雰囲気に。毎年2月には、「尾花沢雪まつり」が開催され、集落雪灯りイベントや幻燈のスカイランタンなども楽しめる。

【P138 摩周湖のサンピラー】

北海道東部の阿寒摩周国立公園内にある摩周湖は、日本で最も透明度が高く美しい湖として知られる。「霧の摩周湖」とも称され、霧に包み込まれていることが多いが、晴れると「摩周ブルー」と呼ばれる神秘的な深い青色の湖面が現れる。

冬には晴れる日が多く、周囲の雪景色とともに絵画のような景観が楽しめる。さらに、厳冬期にはダイヤモンドダストなどの大気中の氷晶に太陽光が反射して柱状の光芒「サンピラー（太陽柱）」が現れることもあり、幻想的な光景に目を奪われる。

【P140 つなん雪まつり】

新潟県の最南端、長野との県境に位置する津南町は、日本有数の豪雪地帯。例年3月上旬には、「つなん雪まつり」が開催され、雪の楽しさと美しさを体感できるさまざまなイベントが開催される。人気のある2大イベントは、夜空に数多くの灯籠が舞う「スカイランタン」と、国内最大規模を誇るスノーボードのストレートジャンプ大会「SNOWWAVE」。ほかにも、伝統行事や雪灯籠、かまくら神社、雪上宝探し、ステージライブなど盛りだくさんの内容で、多くの観光客を楽しませている。

【P141 蔵王の樹氷】

山形県と宮城県との県境に広がる蔵王連峰では、冬期に氷と雪の芸術「樹氷」を見ることができる。これは、日本海側からの季節風に運ばれた雪雲の中の過冷却水滴がアオモリドマツの枝や葉に着氷し、さらに雪も積もって成長していくもの。

樹氷ができるためには特殊な条件が必要なため、国内外ともにごく一部の山域にしか見ることができない。木々が完全に樹氷や雪によって覆われたものは「アイスモンスター」とも呼ばれ、雪原にこれが林立する光景は壮観。特定日にはライトアップも行われており、幻想的な景観が楽しめる。

【P142 雪原の美瑛の丘】

波打つように起伏する丘陵を、花々が美しく彩る「美瑛の丘」で知られる北海道美瑛町。

夏が観光のハイシーズンだが、雪が丘陵を覆いつくす冬もおすすめだ。

どこまでも広がる白銀の雪原と澄んだ青空のコントラストが美しく、斜面の頂上にカラマツが一行に並ぶ「マイルドセブンの丘」や雪原の中に一本ポツンとそびえる「クリスマスツリーの木」など、フォトスポットも豊富。

ときには雪原にキタキツネやウサギの足跡が残されていること

もあり、静寂の中にも大自然の息吹が感じられる。

【P144 ^{みそつち}三十槌の氷柱】

埼玉県秩父の冬の名勝。川沿いの崖の上から湧き出た水が滴り、冬の寒さで凍りついて、幅 30m、高さ 10m の巨大な氷柱を形づくったもので、自然の造形美を楽しめる。

すぐ上流には、幅 55m、高さ 25mというさらに大きな人工の氷柱も造られ、1月中旬から2月中旬にかけてライトアップが行われる。秩父の四季をイメージした色の光が投影され、川に映りこむ様子はとても幻想的だ。

秩父では他にも、尾ノ内百景氷柱、あしがくぼの氷柱という巨大氷柱があり、どちらもライトアップが行われている。

【P146 雪の貴船神社】

鞍馬山の麓にある貴船神社は、水を司る神を祀る歴史ある神社。恋愛成就、縁結びの聖地としても知られ、若い世代の参詣者も多い。

本宮へ続く参道の石段は、両脇に朱塗りの灯籠が立ち並び、京都を代表する人気のフォトスポットとなっている。雪が降り積もると境内がライトアップされ、灯籠で照らし出された参道はいつにもまして幻想的な雰囲気包まれる。

なお、近隣地域は、川の上に木組みの床が設けられ鮎料理などが供される夏の「川床」や、紅葉の名所としても知られている。

【P148 ^{おみわた}諏訪湖の御神渡り】

諏訪湖は、長野県諏訪盆地のほぼ中心に位置する海拔 759 m、湖周約 16 kmの湖。豊かな自然の中で、遊覧船観光や釣りなどが楽しめるレジャースポットとして親しまれている。

冬期に諏訪湖の湖面が全面氷結し、氷の厚さが一定に達すると現れるのが「御神(おみ)渡り」と呼ばれる自然現象。大きな音とともに湖面の氷に亀裂が走り、高さ 30cm から 1m 以上もせり上がって数 km にわたる氷の道ができる。これは、湖面を覆った氷が寒暖差による膨張と収縮を繰り返すことで生まれる奇観だが、伝説では諏訪神社の男神が女神のもとへ通った跡だとされている。

【P149 田沢湖】

秋田県仙北市にある淡水湖で、「日本百景」にも選ばれた景勝地。

周囲約 20km のほぼ円形で、水深は 423.4mと日本一の深さを誇る。この深さと透明度の高さのため、差し込む光の強さや気象条件などによって明るいエメラルドグリーンや濃紺など、湖面がさまざまな色に変化する。

湖周辺の自然とあわせ四季折々の表情が楽しめるが、静寂に包まれる真冬も魅力的。周囲は深い雪に埋もれるが、水深の深い湖は凍結せず、深みのある色彩を湛えている。

【P150 雪の金閣寺】

京都でも清水寺と並ぶ人気の観光スポット。金閣寺は通称であり、正式名称は鹿苑寺(ろくおんじ)。本尊を安置した舍利殿(金閣)が特に有名なため、一般的に金閣寺と呼ばれている。

室町幕府の三代将軍・足利義満が14世紀末に山荘・北山殿を造ったのが始まりで、義満の死後、寺となった。

金閣を中心とする庭園・建築は“極楽浄土をこの世に表した”と言われ、金閣は建物の内外に金箔を貼った3層の楼閣建築。冬に雪の積もった金閣寺の風景は特に美しく、金閣が鏡湖池に映った様はまさに極楽浄土のよう。

【P152 横手の雪まつり】

秋田県の豪雪地帯である横手市では毎年2月15～17日に、伝統行事の「かまくら」と「ぼんでん(梵天)」を合わせた「雪まつり」が開催され、多くの観光客を集めている。

「かまくら」は、雪室の中に水神様を祀る。

雪まつりでは、約 100 基のかまくらが町を彩り、子どもたちが甘酒や餅をふるまう。

一方、「ぼんでん」とは竿の先に神霊の依代(よりしろ)として飾り付けを行ったもので、団体ごとに意匠の異なるぼんでんを作り、町を練り歩いて神社に奉納する。どちらも、この地域ならではの情趣が楽しめる。

【P153 なばなの里のイルミネーション】

「なばなの里」は、三重県にある季節の花と緑を主体としたテーマパーク。

日本最大級、約 4 万 3000 m²の「花ひろば」などで、バラ、チュ

ーリップ、あじさい、しょうぶ、ダリアなど、四季折々の花々を
観賞できる。

また、例年 10 月から翌年 5 月までは園内に国内最大級のスケールと世界最高峰のクオリティを誇るイルミネーションが登場する。

なかでも一番の見所は、毎年内容が変わるテーマエリア(約 2 万 6000 m²)のイルミネーション。最新 LED の美しい輝きでさまざまな情景を表現し、その壮大なスケールと美しさは圧巻だ。

【P154 冬の伏見稲荷大社】

京都市伏見区の稲荷山全体を神域とする全国的にも有名な伏見稲荷大社。

創建 1300 年の歴史を持ち、全国各地に 3 万社あるといわれる「稲荷神社」の総本宮である。参道には、信者から奉納された約 1 万基もの鳥居が建てられていることでも知られる。

なかでも「千本鳥居」は、狭い間隔で数多くの鳥居が立ち並んでおり、壮観。人気のフォトスポットになっている。特に雪の降り積もった日には、真っ白な雪と、鳥居や社殿の朱色とのコントラストが鮮やかで美しい。

【P156 秩父夜祭】

自然豊かな観光地である埼玉県秩父市では、毎年 12 月 2～3 日に秩父一帯の総鎮守である秩父神社の例大祭である「秩父夜祭」が行われる。

見どころは、絢爛豪華に飾り付けられた 2 台の笠鉦(かさほこ)と 4 台の屋台の曳き廻し。勇ましいお囃子にのって、十数トンもある笠鉦・屋台を 150～200 人ほどの曳き手が牽引し、市街を巡行する様子は迫力満点。

夜には提灯やぼんぼりに灯りがともされ、大きな花火が次々と打ち上げられ、華やかさが際立つ。京都・祇園祭、飛騨・高山祭と共に日本三大曳山祭のひとつに数えられる、関東屈指の祭礼だ。

【P158 雨晴海岸】

富山県にある海岸で、日本の「日本の渚百選」、「白砂青松百選」に選ばれた景勝地。

晴れた日には立山連峰の 3000m 級の山々を海越しに見るこ

とができる、世界的にも珍しい絶景スポットだ。

海の向こうに浮かぶように立ち並ぶ立山連峰のパノラマは雄大で、一見の価値がある。

冬期には、海から湯気のように立ち上る霧「気嵐(けあらし)」が発生することがあり、絶景にアクセントを加える。また、元旦には立山連峰の稜線から昇る初日の出を見るために多くの人々が集まる。

【P160 稲佐山の夜景】

稲佐山は、標高は 333m と高くはないが、山頂から 360 度の展望が開ける長崎市の人気のビュースポット。東南側には長崎港とそれを取り囲む市街地を見下ろすことができる。

また、西側には東シナ海が広がり、天気の良い日には東の雲仙から西の五島列島までを一望できる。

特に空気の澄んだ冬の時期の市街地の夜景は美しく、函館の函館山、神戸の摩耶山と並んで日本三大夜景のひとつに数えられる。稲佐山の麓から山頂まではロープウェイで上ることもでき、全面ガラス張りのゴンドラからの眺めも楽しい。

【P162 長谷寺の万灯祈願会】

長谷寺は、736 年の創建と伝えられる鎌倉市の古刹。

本尊として安置されている十一面観世音菩薩像は、木彫仏としては日本最大級の大きさを誇り、人々の崇敬を集めている。

「万灯祈願会」は、年末年始の法要のひとつ。元旦 0 時から新年初の法要が行われた後、僧侶が境内の広場に集い、美しく並べられた約 5000 個の祈願ローソクの前で読経を行う。厳かな雰囲気の中で、無数のゆらめく炎を眺めながら新年を迎えるため、多くの参詣者が訪れる。さらに、夜明けには境内の見晴台から初日の出を望むこともできる。

【P164 メタセコイア並木】

琵琶湖の北西部にあるメタセコイア並木は、滋賀県を代表するフォトスポット。

2.4km の直線道路の両側に高さ 30m を超えるメタセコイアが約 500 本も植えられ、新緑、紅葉、裸樹と四季それぞれに趣深い景観を生み出している。

なかでも、1 月から 2 月にかけての真冬の時期の景色は必見。

豪雪地帯であるため周辺は雪に覆われ、神秘的な白銀の世界が現れる。真っ白に染まった巨大なメタセコイアがリズムカルに並ぶ様子は、芸術作品のような美しさを感じさせる。

【P165 雪の大内宿】

福島県南会津の「大内宿」は、江戸時代に重要な運搬路であった会津西街道の宿場町。

旧街道の両側に茅葺屋根、寄棟造りの民家が立ち並び、江戸時代の町並みが現在も保存されている。往時の雰囲気味わえる観光地として多くの観光客が訪れるが、町を雪が覆う冬の景観はさらに興深い。

茅葺屋根からの雪下ろし作業など、近代化以前の雪国を思わせる情景は郷愁をかきたてる。また、2月の第2土曜・日曜には「大内宿雪まつり」が開催されており、和太鼓の演奏や時代風俗仮装大会、打ち上げ花火などが楽しめる。

【P166 東京ビル群の夜景】

日本最大の人口を擁する東京都。世界有数の大都市には、そこに働き、暮らす人にとっては当たり前でも、ほかの地域の人々や外国人からすれば、驚嘆や感動に値する景色がある。

そのひとつが、ビル群の夜景だ。東京都には、日本一の高さを誇る自立式電波塔の東京スカイツリー(634m)をはじめ、高さ180m以上の超高層建築物が40棟以上もそろそろ。大気中のチリや水蒸気が少ない冬は、夜景、遠景を望む絶好の機会。大都会がつくりだすクールな景観を楽しもう。

【P168 釧路湿原のタンチョウ】

釧路平野にある日本最大の湿原、釧路湿原は、国の特別天然記念物に指定されているタンチョウの姿が見られることで知られている。

この鳥は一年中同じ場所に生息する留鳥であるが、観察に一番向くのが冬だ。繁殖期を前に求愛のダンスを雪の上で舞う姿は、実に華麗。

この時期は、世界中からツルの愛好家たちが訪れる。観光客に眺めを楽しんでもらうための給餌場も設けられており、100羽、200羽と集まる光景が見られることも。

ときには、キタキツネやエゾシカなど、北海道に生息する動

物も目にできる。

【P170 橋杭岩の夜明け】

吉野熊野国立公園地域にある橋杭岩(はしぐいいわ)は、大小およそ40の岩柱が海のなかに約850mにわたって一列に並ぶ奇岩群。

海水による浸食で柱のようになった岩が橋の杭に見えるところから、名前がつけられた。

国の名勝、天然記念物に指定されているこの場所は、奇岩越しに朝日の光景が美しく見える。夜明け前から日の出とともに刻々と空の色が変化してつくられる景観は、見る者を惹きつけてやまない。

干潮時には、岩の途中まで歩いて行けるため、磯遊びの場にもなる。